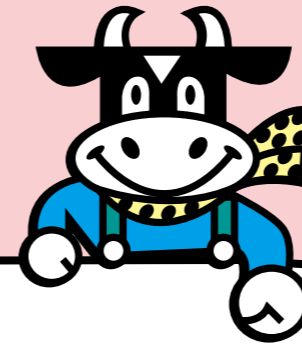




ワンポイント・アドバイス

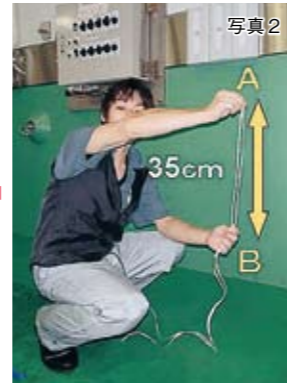


簡易もくし

子牛の点滴をしようというとき、「子牛用のもくしがいい。でもまあ、いいか。」と、そのままもくしを付けずに点滴を入れて、ちよつと目を離れた際に子牛が動いて、「あー、点滴抜けてる。」このような経験はありませんか？子牛は親牛に比べて、点滴にかかる時間が長いので、ある程度は子牛の動きを制限しておきたいものです。そのような時に、重宝するのが簡易もくしです。今回は、その簡易もくしの作り方を紹介しています。日頃から診療で簡易もくしを使っている、西部事業センター診療二課・羽生明正獣医師に実演してもらいました。



①二つ折りにして120cmくらいの紐(量販店で市販されている梱包用ロープなど)を用意します。(※生後約一ヶ月の子牛用サイズです。子牛のサイズに合わせてロープの長さを変えてください。)(写真1)



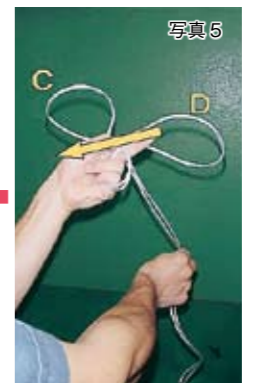
②紐を二つ折りにした頂点(A)と、そこから35cmくらいの(B)二箇所を持ちます。(写真2)



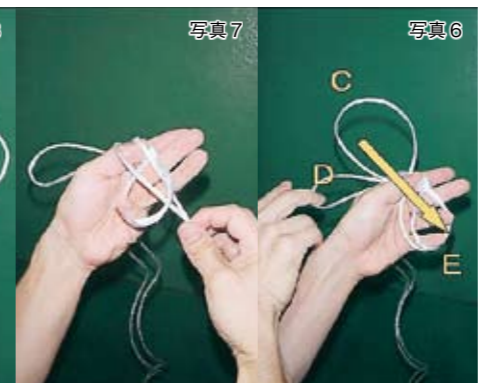
③AとBを左手で一緒に持つと、輪が二つ(C、D)ができます。(写真3)



④長く余っている部分をその二つの輪のあいだに、手前から奥へ輪(E)ができるようにまわします。(写真4)



⑤Dの輪をCの輪の左へ折り曲げます。(写真5)



⑥Cの輪を、Dの輪の上からEへくぐらせ締めます。(写真6、7、8)



⑦結び目を持ち、長く余っている部分を手前から奥へ右側の輪にかけ(写真9)



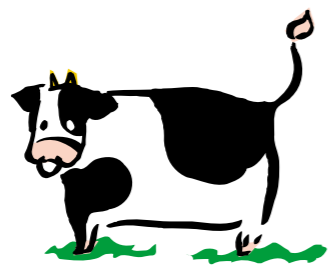
⑧奥から手前へ輪の中を通します。(写真10)



⑨さらに右側の輪へ手前から奥へ通し、締めて完成です。(写真11、12)



⑩子牛に装着している様子です。(写真13)



実際に作ってみると、意外に簡単に作ることができます。組合員の皆さんも、ぜひ一度試してみてください。作り方がわからない時は、西部診療二課・羽生明正獣医師までどしどしお尋ねください。